

□はリンク ※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名	足守荘グループホーム
日付	2008/12/17
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員 介護福祉士 認知症ケア専門士 訪問介護員
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※	

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 法人全体の理念である「生きがいがいい」をキーワードにした「生きがいの探究」「生きがいの創造」とグループホームの理念「入居者が主体となる・入居者が日々穏やかに過ごせる・コミュニケーションに重点を置き心のケアができる・入居者が望まれる事を把握し対応できる・気軽にいろいろな方が立ち寄れるグループホーム」の実現に努め少しでも長く豊かな良い時間を共に過ごせるグループホームを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 家庭的な環境づくりを心掛け、共用の場は季節の飾り付けなどしてみんなと季節を感じながら過ごし、居室は慣れ親しんだ身の回りの物を置いて自分らしい生活が出来るよう支援している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

講評
全体を通して（特に良いと思われる点など） ・母体が地域に密着した医療・福祉法人で医療と福祉のネットワークを活用しながらグループホームの特性を活かした運営が行われている。 ・グループホームの社会的な役割を認識した運営理念・運営体制・生活空間づくり・ケアサービスが行われており、常に内容の充実が図られ質の高い介護が行われている。 ・医療・福祉施設で本格的なドックセラビーによる認知症の緩和や機能訓練の補助が行われており、グループホームも曜日を決めて導入している。犬と過ごす事で機能低下防止や感情表現の回復・心理状態の安定などのさまざまな効用が望める。あしもりクリニック等医療機関との連携、在宅・施設系の福祉機関との連携も取れており日常的な医療をはじめ緊急時の対応など安心した生活への環境へ繋がっている。
特に改善の余地があると思われる点 特にありません。

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	ブライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 共同生活の中でその人らしく暮らせる事を大切にした支援を心掛け、残存機能を引き出しながら自立した生活の継続に取り組んでいる。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 日々のケアでの気づきや問題発生時の対応による日ごろから研鑽と、協働での伝達研修など常にサービスの質の向上に努めている。また、年1回の定期研修・月1回の専門講師による勉強会・随時認知症の勉強会等々質の向上に向け努力している。		